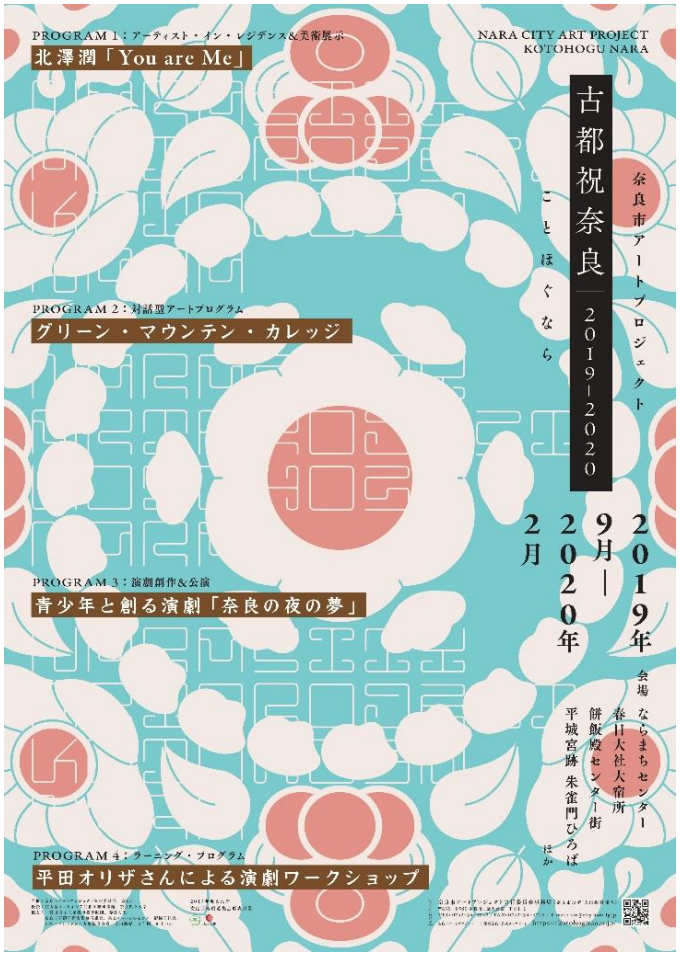
資料２－１

令和元年度奈良市アートプロジェクト

「古都祝奈良 2019-2020」

実績報告書



令和２年３月

奈良市アートプロジェクト実行委員会

目 次

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」について 1

令和元年度事業概要 2

奈良市アートプロジェクト実行委員会について 3

各プログラムについて

PROGRAM1：アーティスト・イン・レジデンス＆美術展示／北澤潤「You are Me」 5

PROGRAM2：対話型アートプログラム／グリーン・マウンテン・カレッジ 15

PROGRAM3：演劇創作＆公演／青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」 21

PROGRAM4：ラーニング・プログラム／平田オリザさんによる演劇ワークショップ 29

広報活動について 30

検討と課題 33

《資料編》

（1） 令和元年度プログラム参加者数等まとめ 35

（2） 令和元年度事業計画 38

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」について

奈良市では平成 28 年に取り組んだ国家プロジェクト「東アジア文化都市 2016 奈良市」において、古都奈良に現代アートの息吹を吹き込むという、大きなチャレンジに挑みました。特にコア期間「古都祝奈良（ことほぐなら）」では、社寺やならまちなど「場の力」を背景としたプログラムを展開しました。この事業の成果を持続的に生かしていくために、平成 29 年度から「古都祝奈良」の名称を継承し、奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」を実施しています。

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」は、1300 年にわたる歴史や文化が今に息づく奈良を舞台に、美術や演劇などの現代の表現を通じて、奈良に集う国内外の人びとと奈良で生活する人びとがともに体験しつくりあげるプロジェクトです。

3年目となる今年度は、国内外で活躍するアーティストによる創作のみならず、地域や市民との創作過程で関わりを重視したクリエイティブプログラムと、アートを手法にした学び合いや創作体験を通じて獲得したものを次世代へ伝えていくためのラーニングプログラムとして4つのプログラムを実施しました。

全てのプログラムに通じるキーワードは「他者との出会い」であり、個々の出会いや発見が幾重にも積み重なることで、「古都祝奈良」は古都奈良の新たな価値の創造につなげるとともに、文化の多様性を創造力へとつなげることをめざします。

令和元年度事業概要

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良（ことほぐなら） 2019-2020」

期間　令和元年 9 月 29 日（日）～令和 2 年 2 月 1 日（土）

会場　ならまちセンター
春日大社大宿所
餅飯殿センター街
さるさわ遊歩道
平城宮跡　朱雀門ひろば

主催　奈良市アートプロジェクト実行委員会
奈良市

後援　在大阪インドネシア共和国総領事館
奈良県立大学

協力　一般財団法人奈良市総合財団
アンクルン音楽クラブ con brio
春日大社
奈良市下御門商店街協同組合
奈良もちいどのセンター街協同組合
日本・インドネシア友好協会奈良
平城宮跡管理センター
吉田勝紀
青年団
田上パル

助成　2019 年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業
もっと良くなる奈良県市町村応援補助金（美術プログラム）

奈良市アートプロジェクト実行委員会について

平成 28 年 12 月に「奈良市アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、下記のメンバーにより実行委員会を構成しています。

奈良市アートプロジェクト実行委員会

分野等		所属/役職	氏 名
副委員長	東アジア文化都市	東アジア文化都市 2016 奈良市実行委員会/委員 同志社大学/特別客員教授	佐々木 雅幸
	文化振興計画	奈良市文化振興計画推進委員会/副委員長 大阪樟蔭女子大学/教授	萩原 雅也
委員長	行政	奈良市長	仲川 げん
		奈良市教育委員会/教育長	中室 雄俊
	監事	税理士	青木 幸子

（順不同・敬称略）

今年度は下記のとおり会議を開催しました。

<u>第 1 回奈良市アートプロジェクト実行委員会（書面決議）</u>

開催日（決議日） 平成 31 年 4 月 11 日（木）

議事

- 第1号議案 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」平成 31 年度事業実施について
- 第 2 号議案 平成 31 年度「古都祝奈良 2019-2020」予算について
- 第 3 号議案 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」平成 31 年度プログラムディレクターについて

決議結果 全議案承認

第 2 回奈良市アートプロジェクト実行委員会

開催日　令和元年 5 月 9 日（木）

議事

- 第1号議案　委員長専決事項及び奈良市アートプロジェクト実行委員会会則について
- 第 2 号議案　平成 30 年度事業報告と決算報告について
- 第 3 号議案　令和元年度事業計画（案）について

決議結果　全議案承認

委員からの主な意見

- Society5.0 や AI の時代で大事なのは創造性であり、幼児教育から取り組むのが望ましいため、こども向けのワークショップなどをもっと打ち出してみてはどうか。
- 市民の参加や理解を得るためには、アートのもつ創造性をアートの領域だけでなく広い分野に広げていくことが必要である。
- 現代美術は難しいと思われがちであり、多くの人に親しんでもらうためには鑑賞の質を高めるため鑑賞者を育てることも重要。
- 2020 年後の事業の中長期的プランを立て、議論することが必要である。

第 3 回奈良市アートプロジェクト実行委員会（書面決議）

開催日（決議日）　令和元年 7 月 26 日（金）

議事

- 第1号議案　青少年と創る演劇　新たな作品の創作について

決議結果　承認

第 4 回奈良市アートプロジェクト実行委員会（書面決議）

開催日（決議日）　令和元年 10 月 18 日（金）

議事

- 第1号議案　北澤潤「You are Me」実施概要について

決議結果　承認

各プログラムについて

PROGRAM1：アーティスト・イン・レジデンス＆美術展示／

北澤潤「You are Me」

令和元年度は、インドネシアを拠点に活動するアーティスト・北澤潤氏を招へいし、インドネシアの事物を創造的に据え直すことで生まれた 5 つのプロジェクトを奈良に持ち込みました。異国の日常の時間や風景が重なるひとときを体験しながら、身近にいる「他者」との違いと共に過ごし、そこにある微かな重なりを見いだして楽しむ機会をつくりだすことを試みました。

【プログラム概要】
会期：令和 2 年 1 月 10 日（金）～2 月 1 日（土）
会場：ならまちセンター、春日大社大宿所、
　　餅飯殿センター街、平城宮跡朱雀門ひろば
　　さるさわ遊歩道
プログラムディレクター：西尾　美也
総来場者数：33,590 人

【企画・制作過程・プログラム運営】
（1）4 月 19 日（金） プラン作成のための視察

視察場所	東大寺大仏殿、転害門、少年刑務所、北山十八間戸、春日大社・飛火野、 ならまちセンター、興福寺、もちいどのセンター街、平城宮跡、奈良競輪場、 中登美団地ショッピングセンター街、富雄丸山古墳

(2)7 月 7 日(日)～10 日(水) プロジェクト内容具体化のための視察

制作・実施スケジュール詳細を検討するため、2度目の視察をするとともに、プロジェクトの展開において重要な要素となるインドネシア出身の協力者を募るため、各関係団体や個人と打ち合わせを行いました。

日	視察内容
7 月 7 日(日)	奈良在住のインドネシア出身女性、インドネシア友好協会奈良 会長と打ち合わせ
7 月 8 日(月)	・鴻池陸上競技場、京終駅、椿井市場、ならまちセンター、ならまちの視察 ・奈良女子大学博士課程のインドネシア出身女性と打ち合わせ
7 月 9 日(火)	・人力車やまと屋奈良、近鉄奈良駅周辺、奈良公園バスターミナルの視察 ・奈良総合ビジネス専門学校日本語学科のインドネシア出身留学生 9 名と打ち合わせ
7 月 10 日(水)	平城宮跡、ならまちセンター、椿井市場、mellow café の視察

各プロジェクトについて

■　ロスト・ターミナル－LOST TERMINAL

[会場]ならまちセンター芝生広場　※土日祝日 10 時 30 分から 12 時は試乗会を実施

[コンセプト]

　インドネシアの活気あふれる路上の風景の象徴である三輪人力車「ベチャ」をモデルに、現地の職人と乗り物を製作。奈良まで輸送し、「失われた発着場」を日本のまちなかにつくりだします。

[内容]

　設営時から奈良の街に突如カラフルなベチャが置かれた異質な光景は、道行く人の興味を誘い、ベチャを見ながら通る姿が多くありました。土日祝日に実施した試乗会では、実際に運転してみることで、インドネシアの方々がいま現在も車や馬車などに混ざってベチャを乗りこなす運転技術や身体能力の高さを実感する体験となりました。

［撮影　衣笠　名津美］

■　フラグメンツ・パッセージ－FRAGMENTS PASSAGE

［会場］春日大社大宿所

［コンセプト］

　仮設の細道に足を踏み入れると、持ち寄ったものを自由に「おすそわけ」し合う市場が広がります。インドネシアの伝統的な市場の風景のように、通路（パッセージ）はものや人が留まり行き交う不思議な空間へと変化していきます。

［内容］

　会期前半はインドネシアの日常からのおすそわけばかりが並ぶ中に、来場者からのおすそわけ品が少しずつ加わり、市場の様子（並んでいる物や空間そのもの）は日々変化していきました。会期後半には、おすそわけをしてくれた方は、おかえしに気になる品があればスタッフとの交渉を経て、市場からのおすそわけを受け取ることもでき、市場でのコミュニケーション内容も日々変化していきました。

　来場者は、徐々に国や文化がごちゃ混ぜになり変化していく空間を純粋に楽しむとともに、インドネシアや奈良のかけ離れていると感じるふたつの日常が混在していく空間を社会の縮図として感じる体験となりました。

［撮影　衣笠　名津美（1 列目、2 列目左）、米田真也（2 列目右、3 列目）］

■インフォメーションセンター

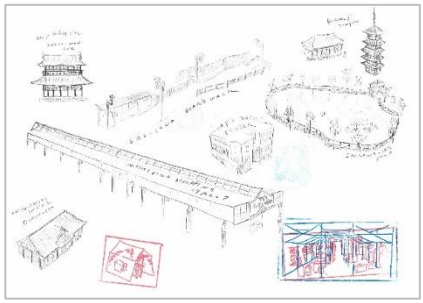
フラグメンツ・パッセージ会場には、ノーウェア・オアシスでも使用している移動式屋台「アンクリンガン」を活用したインフォメーションセンターを設置し、パンフレット配布やスタンプラリーの説明を行いました。

［撮影　衣笠　名津美］

【スタンプラリー】

スタンプを５つ集めたら特製バッチ、9つ全部集めたらもう一つ特製バッチをプレゼント

スタンプラリー台紙（外面）



スタンプラリー台紙（中面：スタンプ押印例）

［画像提供：北澤潤八雲事務所］

■　ノーウェア・オアシス－NOWHERE OASIS

［会場］餅飯殿センター街周辺（OK広場前、下御門郵便局斜め前の住宅前広場）

［コンセプト］

古都ジョグジャカルタに点在する屋台「アンクリンガン」が奈良の商店街に出現。同地の路上風景がプリントされた特製シートで覆われた屋台はインドネシアのインスタントドリンクやスナックをつまみくつろぐ場となります。

［内容］

昼下がりに商店街の一角に屋台を立て、その運営の中心をインドネシア人プロジェクトメンバーが担いました。道行く人どなたでも立ち寄ることができ、ふるまいのインドネシアのインスタントドリンクやアンクリンガンに集まった人同士のおしゃべり等、それぞれのくつろぎの時間を楽しみました。

［撮影　衣笠　名津美］

■　地球の鳥かご－Birdcage of the Earth

［会場］さるさわ遊歩道

［コンセプト］

　ジャワ島でよく見かける鳥かごの布を地球の柄に差し替え、店の軒先に地球の鳥かごを吊り下げます。すべての生物を包むケージ（籠／檻）とも言える地球のイメージを用いることで人間と動物の所有の関係を捉え直します。

［内容］

　近くに住む方にとっては生活道路であり、観光に訪れた方にとっては名所への近道である路地に作品を展示しました。夜には鳥かごに明かりがともり、路地への彩りを添える作品となりました。

［撮影　衣笠　名津美］

■ ひとときのミュージアム－MOMENTARY MUSEUM

[日時・会場]令和2年 1月 18 日(土)14 時－15 時 30 分・平城宮跡 朱雀門ひろば

[コンセプト]

平城宮跡でアルファベットが描かれた凧を参加者みんなで飛ばし、風景に「ひととき(momentary)」のメッセージを掲げます。飛ばすことが難しいジャカルタ製の凧によるメッセージは楽しくも儚く浮かび消えていきます。

[内容]

最初に室内で北澤氏が作品コンセプトやインドネシア製の凧は揚げることがかなり難しいこと等を話しました。その後外に出て実際に凧揚げに挑戦しました。最後に「M」「E」のアルファベットが描かれた凧揚げに挑戦し、低空飛行ながら、ひとときの[ME]のメッセージを掲げることができました。

たくさんのこどもたちのほか、大人も童心に帰り、プロジェクトを楽しみました。

[撮影 衣笠 名津美]

■ 関連イベント

・　アーティストと巡る作品鑑賞ツアー

［日時］1 月 10 日（金）16 時～17 時

［内容］

　4 つの作品を徒歩で巡りながら、北澤潤さんから直接作品に込められた思いを聞き、理解を深めました。

［撮影　衣笠　名津美］

・　オープニングイベント

［日時・会場］1 月 10 日（金）17 時～18 時・春日大社大宿所

［内容］

　主催者（奈良市長　仲川げん）および西尾プログラムディレクターの挨拶と北澤潤さんはじめプロジェクトメンバーの紹介・挨拶をした後、インドネシアの伝統楽器「アンクルン」を演奏する音楽サークル「con brio」による演奏と参加者も交えての演奏を行いました。

　また、来場者の方々へのおもてなしとしてインドネシアのドリンクをふるまいました。

［アンクル音楽クラブ　con brio　プロフィール］

con brio とは音楽用語で「生き生きと」。障がいのある子どもたちに音楽の楽しさ、楽器を奏でる喜びを感じてほしいと願い 2011 年結成。インドネシアの楽器「アンクルン」を用い、「つなげよう　音もこころも」をテーマに活動している。

［撮影　衣笠　名津美］

・　ベチャ＆人力車の試乗会

［日時・会場］1 月 25 日（土） 10 時 30 分～12 時・ならまちセンター芝生広場

［内容］

人力車は明治時代にアジア各国を輸出された歴史があり、ベチャのルーツも人力車といわれていることから、人力車とベチャの相違点やそれぞれの魅力について説明したあと、実際に2つの乗り物の乗り比べを行いました。（人力車は乗車のみ）

［撮影　米田　真也］

・　北澤潤ドローイング展

[日時・会場]1 月 10 日(金)～2 月 1 日(土)・mellow café

[内容]プロジェクトの源泉となったインドネシアの日常を描いたドローイング作品を展示しました。

[撮影　米田　真也]

【来場者数内訳】

ロスト・ターミナル	15,239 人
フラグメンツ・パッセージ	5,151 人
ノーウェア・オアシス	428 人
地球の鳥かご	9,780 人
ひとときのミュージアム	29 人
ドローイング展	2,963 人
総来場者数	33,590 人

PROGRAM2：対話型アートプログラム／

グリーン・マウンテン・カレッジ

平成 30 年度、京都市立芸術大学教授の小山田徹氏より提案され実施した当プログラムは、令和元年度も共有空間の獲得を目指し、参加者とともに対話を繰り広げる「学び合いの場」として、「他者性」を共通テーマにゲストを迎え、全 4 回実施しました。

【実施概要】

日	テーマ	ゲスト	参加者数
9 月 29 日（日） 18 時～20 時 ならまちセンター芝生広場	学び合い－ 他者の生活を想像する	小山田徹	59 人
11 月 17 日（日） 18 時～20 時 ならまちセンター芝生広場	学び合い－ 個々の関係をつくる「移住」	平田オリザ 小山田徹	50 人
12 月 21 日（土） 18 時～20 時 ならまちセンター芝生広場	学び合い－ 他者の人生を演じる「演じる」	田上豊 小山田徹	60 人
1 月 26 日（日） 18 時～20 時 ならまちセンター芝生広場	学び合い－ 他者の思考を知る「シェアリング」	北澤潤 西尾美也 小山田徹	30 人

［グリーン・マウンテン・カレッジ校長　小山田徹 プロフィール］

1961 年鹿児島生まれ、京都府在住。美術家／京都市立芸術大学美術学部教授。京都市立芸術大学日本画科卒業。1984 年大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。主に企画構成、舞台美術を担当し、国内外の数多くの公演に参加。ダムタイプの活動と平行して 1990 年から、さまざまな共有空間の開発を始め、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」「コモンカフェ」「祈る人屋台」「カラス板屋」などの企画を行う他、コミュニティカフェ「Bazaar Cafe」の立ち上げに参加するなど、さまざまな友人らと造形施工集団を作り共有空間の開発を行う。

【各回レポート】

令和元年 9 月 29 日(日)18 時～20 時(ならまちセンター 芝生広場)

学び合い－他者の生活を想像する

小山田　徹(グリーン・マウンテン・カレッジ校長)

まだ明るいうちから、グリーン・マウンテン・カレッジの象徴であるティピーテントと薪ストーブを並べていると、「今から何があるの？」と声をかけてくださる方もちらほら。

グリーン・マウンテン・カレッジは、たき火を囲みながら、その日のゲストの話を聞いて理解を深めたり、自由にお話をしたり、ティピーテントの中で遊んだり、たき火で美味しいものをこしらえたり・・・来てくださった人同士が自由に学び合い、過ごし、共有空間をともに作り上げるプログラムです。

1 回目の今回は、当カレッジ校長の小山田徹さんが、これまでされてきたプロジェクトの話をとおして、なぜ、どのように共有空間を作ってきたか、また、共有空間を通じて他者との関係性をどう育むかについて話してくださいました。

かつて世の中のゆがみに対する怒りから、一挙に社会を変えようと活動していたこと。

しかし一つの方法を他者に押し付けるだけでは歪んでいて、それでは世の中は変わらないと敗北感があったこと。

その経験を通じて、すぐに答えは出なくても多様な人が多様な問題を持続的に話し合い活動できる場と時間を作りつづけることが必要だと実感し、共有空間を色んなところに作り始めたこと。

また、阪神淡路大震災や東日本大震災では、被災者の方が本当に必要としているのは何かを知るための関係性を築くのに、屋台やたき火が有効なツールであったこと。

だから今たき火と触れ合う場所を作って、次世代の人達にも安全なたき火の仕方と楽しみ方を伝えていること。

また身近な家族との関係性についても、ご自身の家族との経験談を例にお話しくださいました。例えば、業務のようにこなしている家事も、家族の関わり方のちょっとした工夫を見つけて、続けることによって(工夫は人それぞれ)、家族間の理解が深まったり、会話が弾んだりするんじゃないか、と。

小山田校長のお話の後は、火を絶やさないようにしながらのフリータイムで、思い思いの時間を過ごしました。

令和元年 11 月 17 日(日)18 時～20 時(ならまちセンター 芝生広場)

学び合い－個々の関係をつくる「移住」

平田　オリザ(劇作家・演出家・「青年団」主宰・こまばアゴラ劇場芸術総監督・
城崎国際アートセンター芸術監督)
小山田　徹(グリーン・マウンテン・カレッジ校長)

秋が深まり、たき火が恋しくなる季節になってきました。

今年度 2 回目の今回は、日本の現代演劇を牽引されている劇作家・演出家である平田オリザさんをゲストに迎え、当カレッジ校長の小山田徹さんと「移住」をテーマに話していただきました。

とある文化講演会で城崎を訪れた平田さんは、豊岡市長とのやり取りがきっかけとなり、城崎国際アートセンターの開館に協力することになりました。その後、豊岡における演劇も学べる専門職大学の開校に向け、学長候補となったこともあり、移住することとなったそうです。

城崎ではアートセンターのオープンにより、豊岡を拠点として活動する演劇などの団体が増えているとのこと。城崎温泉街の旅館などでは働き手が不足しており、アーティストにとっては働きながら芸術活動が行えることも、移住を決断しやすい環境であったようです。

東京などの都会は近所づきあいがなく、「災害などの際、コミュニティの役割を果たせない」と平田さん。その点、豊岡ではちょうどいい距離感でつながっており、先日の台風でも近所の人に助けていただいたと話されました。

また、お二人とも大学で芸術教育に携わっておられることもあり、話題は「大学と演劇」に。コミュニケーション能力などを身につけるための「教養」として、またエンターテインメント産業の基礎かつ先端研究の対象として、演劇を大学で学ぶ意義を平田さんから説明いただきました。

小山田校長と平田さんによる約1時間の対談を終え、後半の1時間は参加者たちとたき火を囲んでざっくばらんにお話をしました。

令和元年 12 月 21 日（日）18 時～20 時（ならまちセンター 芝生広場）

学び合い－他者の人生を演じる「演じる」

田上　豊（劇作家・演出家・田上パル主宰・富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督・「古都祝奈良 2019-2020」プログラムディレクター）
小山田　徹（グリーン・マウンテン・カレッジ校長）

青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」上演日の 12 月 21 日の夜、グリーン・マウンテン・カレッジを実施しました。

ゲストは、青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」の翻案台本・演出をしてくださった田上豊さん。そして、本番の片付けと振り返りをした後そのままグリーン・マウンテン・カレッジにも参加してくれた「青少年と創る演劇」参加者の皆さんと、これまでに「青少年と創る演劇」に参加してくれていたOB、OGの皆さんも一緒にたき火を囲みました。

「演じる」というテーマで、田上さんと当カレッジ校長の小山田徹さんのお話しがはじまってすぐ、田上さんの「他者を生きたり、役を演じるということは 10 代の君たちにはどういうことなのか聞いてみたい」という投げかけで、「青少年と創る演劇」参加者へもマイクを回してみることに。

とある子は、「自分は自分のことを認める感情が少ないが、他者の人生はこういうものなんだと知ったり、他者の人生の中の人間関係を考えることは楽しくて、それを経験することで間接的に自分のことを認められることもある、だから演じることが好き」と思いを話してくれました。

他の子も「演じることで自分はできないことを役になれば出来るのがすごく新鮮で楽しくて気持ちが良い」、「演じるというよりかは他者との関係性を導き出しながらそのキャラを自分なりに作り上げているという感じだった」と話してくれました。

また、作品を創り上げるうえで他者との意見のすり合わせをどうしているのかという質問には、「まずは相手の意見を絶対に否定しないことを気を付けていた。自分と同じところと違うところを最初に見つけることが大事だと思う」、「自分の意見を持ちたい人もいるから、ある程度引いて合わせていくことも大切」という「青少年と創る演劇」での作品創作過程を経て実感したことを共有してくれました。

田上さんも、演劇は作品が出来ていくのに合わせてコミュニティが成熟していくところがあり、無意識的にもコミュニケーションの仕方が強化されていくので、話し合いには基本的には口出しをしないようにしているそうです。

他にも、10 代の頃は映画監督になりたかった田上さんが演劇学科しかなかった大学に入ってしまったことがきっかけで演出家になったことや、小山田校長もかつてはディープな演劇をしていたことなど、思わず笑いを誘うお話も飛び交いました。

その後も思い思いのフリータイムを過ごし、たき火を囲むひとときを満喫しました。

令和 2 年 1 月 26 日（日）18 時～20 時（ならまちセンター 芝生広場）

学び合い－他者の思考を知る「シェアリング」

北澤　潤（美術家・「古都祝奈良 2019-2020」招へいアーティスト）
西尾　美也（美術家・奈良県立大学地域創造学部准教授・
「古都祝奈良 2019-2020」プログラムディレクター）
小山田　徹（グリーン・マウンテン・カレッジ校長）

事前の雨予報から一転、この時期の奈良としては比較的暖かい夜となったこの日、今年度最終回を迎えたグリーン・マウンテン・カレッジは、いつもとはちょっと違った風景の中ではじまりました。会場のならまちセンター芝生広場には、ゲストのアーティスト北澤潤さんと「古都祝奈良」プログラムディレクター西尾美也さん、そして小山田校長。3人の後ろにはインドネシアの乗り物である三輪人力車が6台並んでいます。北澤さんの作品「ロスト・ターミナル」のベチャたちです。

1月10日より2月1日まで奈良の街なかで、アーティスト・イン・レジデンス＆美術展示として「You are Me」を展開する北澤さん。トークはまず小山田校長が西尾さんに、今回北澤さんを招へいした思いを伺いました。

これまでの「古都祝奈良」での企画を顧みながら、1年目が“もの”としてわかりやすいアートプロジェクト、2年目が“こと”としてのアートプロジェクト、そして今年度は“もの”としての展開を見せながら“こと”としてのコミュニケーションを生みだす北澤さんにお願いしたと語る西尾さん。

次に北澤さんへ、現在拠点としているインドネシアとの関わりのきっかけについて訊ねました。「国際交流基金が東南アジアにアーティストを派遣するプログラムに選ばれたこと、人との出会いなどを通じて自分の中にインドネシアに対する小さな引っ掛かりがあったこと、そして決定打は、2015 年のスラウェシ島の洞窟壁画発見のニュースでした。」と北澤さん。

ここで小山田校長がニンマリ。実は校長、日本洞窟学会会員です。話が更に洞窟の奥へと進みそうになるところを「You are Me」に戻して、北澤さんが今回何を奈良に持ち込もうとしたのかと質問しました。

北澤さんは今回初めて作品に包括的なタイトルを付けたと語り、伝えたかったのは、「You are Me」＝「あなたはわたし」という考え方。

そもそも二者は違う前提ですが、生きていくための考え方として、異質な乗り物や市場を見た時どんな風に思いますか？ ということが、インドネシアで暮らす「僕自身の大問題でした。」と言います。

北澤さんの個々の作品は、例えばベチャに乗る身体性、市場でものを分け合うシェア意識、屋台でグダグダする時間感覚など、インドネシアで感じたカルチャーショックがきっかけになっており、西尾さんも同様に、かつて2年間滞在したケニアで感じた身体性や時間感覚の違いへの興味から活動が広がったと話しました。お二人と世代の違う小山田校長からは、お二人が感じたカルチャーショックや興味に対して既視感という言葉が出ました。実はそれは世界にも過去の日本にも既にあるもので、その中で、今の日本で行うアートプロジェクトとは“引き算”してみせること、“元々その地域が持っていたものを掘り起こすこと”なのではと話は続きました。

またベチャについて、参加者のお一人から、かつて勤めていたジャカルタの日本人学校で、運動会の借り物競争でこれを走らせ大騒動になった話が愉快に語られ、会場が笑いに包まれる一幕も。

この日のカレッジのテーマ「シェアリング」について、校長の「物品や空間だけじゃなく、本当は個々の能力を（ビジネスの中だけでなく）、やりとり出来るのが望ましい形だと思う。」との話に、「身体感覚や時間感覚など、知らないものを得るというより、自分の中に元々ある感覚をシェアしようって訴えているのが今回の作品たちです。」と北澤さん。

最後に、小山田校長から今後について訊かれたお二人。西尾さんは「古都祝奈良」について「イリーガルをリーガルに実現していく。実現は面倒だがそれをやることで風穴が開けられるのだと、参加した人がこんな風穴を開けてみたいって思ってもらえたら」と話し、「鑑賞者が表現者になり得るような企画を考えていきたい。」との思いを語られました。

そして北澤さんは「今回インドネシアから人を呼んだり、5、6個のプロジェクトを同時にやったりと、自分にとって結構チャレンジングで、燃焼しました。」と笑いを誘いながら、今後は「ダブル・ローカリティー、デュアル・ローカリティーという言葉を手掛かりに、どちらをも乗り越える別の世界、新しい普遍性を創るプロジェクトをやりたい。」と、次なる構想について教えてくださいました。

北澤さんや西尾さんが「色んな文化の中に飛び込み、自分の体で何かを獲得して、それを思考するというのは、眺めていて勇気が湧くね。なんか嬉しいです。」と顔をほころばせる小山田校長。終わりは今年度のグリーン・マウンテン・カレッジ全 4 回の感謝と、「気候にも左右されるし、たまたま集まった人の雰囲気にもよるし、そういうザラ付き、でこぼこを感じながら色んな人の話を聞くことは重要なことかなと思っています。」との言葉で、最終回のトークは終了しました。

参加者は北澤さんのおすそわけのインドネシアの温かい飲み物を啜りながら、今年度最後のたき火と語らいのひとときを、じっくり味わいました。

［撮影　山口　健一郎］

PROGRAM3：演劇創作＆公演／

青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」

青少年と創る演劇は、次代を担う若者が創作の過程を演劇のプロとともに経験することで、創造する喜びを体感し、その成果を発信するとともに、地元である奈良を自分の言葉で語ることができる人材の育成を目指すプログラムです。

令和元年度は、平成 29 年度から引き続き劇作家で演出家の田上豊氏（田上パル主宰）をプログラムディレクター、演出家に迎え、中高生とともに新たな作品「奈良の夜の夢」を創作、上演しました。

23 人の参加者のうち 7 人が演劇未経験者、10 人がこれまでの青少年と創る演劇参加者、6 人が部活動での演劇経験者であり、また年齢も学校も違うなか、一つの作品を創り上げていくための仲を深め、約5か月間にわたるプログラムをやり抜きました。

【作品概要】

青少年と創る「奈良の夜の夢」

原　　作　　：ウィリアム・シェイクスピア「夏の夜の夢」

翻 案 協 力 ：青少年と創る演劇参加者一同

翻案台本・演出：田上　豊

参 加 者 数 ：23 人

内訳	中学女子	中学男子	高校女子	高校男子
出演者	5	1	12	3
クリエイションスタッフ	1	—	1	—
計	6	1	13	3

【創作過程】

(1)演劇体験ワークショップ

青少年と創る演劇とはどんなプログラムなのか、まずは体験してもらうためのワークショップを 2 日間実施しました。田上氏からプログラム説明や演劇をやるうえで大切なことなどをお話いただいた後、参加者同士の仲を深めるワークショップショップ（他己紹介、スパイゲーム等）を行いました。

また今回はウィリアム・シェイクスピア原作「夏の夜の夢」を題材に、奈良の要素を取り入れた新たな演目を創作することも発表され、夏休み中に原作を読んでおくように、という宿題が出されました。

[日　時]令和元年８月３日(土)、４日(日)13 時 30 分～16 時 30 分
[場　所]ならまちセンター　多目的ホール
[参加者]3 日　13 人／4 日　13 人

(2)創作入門ワークショップ

ウィリアム・シェイクスピア原作「夏の夜の夢」を題材として新たな作品を創作するにあたり、まずは原作の理解を深めるためストーリーや登場人物、の整理、シーン分けをしました。また夏休み中に各自で原作を読んできたことを元に、原作の感想や気になった登場人物の発表、奈良バージョンにするためのアイディア出しを行いました。またシェイクスピア作品特有の長セリフを、中高生たちが自分達の話し書き換えるワークも行い、個性豊かなセリフまわしに参加者同士、笑いを誘いました。

[日　時]令和元年９月７日(土)、８日(日)13 時 30 分～16 時 30 分
[場　所]ならまちセンター　多目的ホール
[参加者]7 日 9 人、8 日 17 人

(3)基礎練習

本プログラムには演劇経験や年齢、学年が様々な参加者が集まっており、12 月には参加者の特性に関わらずみんなが一体となって本稽古に臨める仲間となっている必要があり、そのための演劇基礎練習を 4 回行いました。

観客に見せる意識、見られる意識を養う練習、発声練習、即興表現を中心に、県内で演劇普及活動をされているナLIVE実行委員会の新居達也さんらに指導いただき、練習を重ねました。基

礎練習から参加者同士が意見を出し合って話し合いを重ねることで、仲間としての信頼関係が深まりました。

[日　時]令和元年 9 月 19 日(木)、26 日(木)　18 時～20 時 30 分
　　10 月 6 日(日)、13 日(日)　13 時 30 分～16 時 30 分
[場　所]ならまちセンター　多目的ホール
[参加者]19 日 15 人、26 日 13 人、6 日 18 人、13 日 13 人
[内　容]名前を覚えるための様々なゲーム、歩き方の練習(舞台と観客を意識する)、
　腹式呼吸の練習、発声練習、ジェスチャーゲーム、ポスターゲーム、
　短いストーリーの創作と発表

(4)配役オーディション、事業説明会

9 月の創作入門ワークショップで参加者から出されたアイディアを活かした「夏の夜の夢」翻案台本が田上豊氏によって書き進められるのと並行して、配役オーディションを行いました。いくつかのシーンを様々な配役パターンで読み合わせをしたり、参加者各々の特技発表を行い、田上氏が改めて配役を検討することとなりました。

また同日、保護者同席の事業説明会を実施し、参加にあたって意欲の確認、留意事項等を説明し当プログラムに対する理解と協力をお願いしました。

[日　時]令和元年 10 月 27 日(日)
　13 時～17 時　配役オーディション＆クリエイションスタッフ説明

18 時～19 時　事業説明会

[場　所]ならまちセンター　多目的ホール

[参 加 者]中高生 20 人、参加者の保護者 15 組

(5)プレ稽古

本稽古に先駆けて、3 日間のプレ稽古を行いました。前回の配役オーディション後、田上氏検討した配役案を何パターンも確認し、プレ稽古最終日に配役が発表されました。

[日　時]令和元年 11 月 18 日(月),19 日(火),20 日(水)　18 時～20 時 30 分

[場　所]なら 100 年会館　小ホール(18 日)、ならまちセンター　多目的ホール(19,20 日)

[参 加 者]18 日 22 人、19 日 18 人、20 日 22 人

(6)本稽古

本稽古から演出助手の福田健二氏も合流し、稽古初日に全シーン分の翻案台本が参加者へ渡されました。稽古前半は学校の期末試験中の参加者も多く、出席者が自分の本来の役に加え、代役も積極的にこなしながら稽古を進めました。代役で稽古を進めた場合は、代役の子から本人へ、付いた演出を伝えなければなりません。本人は休んだ分を補うため、また代役もした子は自分の本来の役の稽古もするため、参加者同士で密にコミュニケーションをとり、時間の使い方を工夫し自主練習も積極的に励みました。

青少年と創る演劇では、演出家が一方的に演出を付けるのではなく、出演者本人達がどういう演出にしたいかを考えて、演出家とともにブラッシュアップしていくという方法で進めます。特に新たな作品を創り上げる今回は、出演者同士で出し合った意見をすり合わせて作ることが多かったのですが、8 月の活動から徐々に仲間づくりをしてきたこともあり、みんなが自分のできることやアイディアを出し合い作品を創り上げていきました。

稽古中盤からは舞台スタッフの方々も徐々に稽古へ加わりました。クリエイションスタッフ 2 人もプロのスタッフに混じり、演出助手と衣装係として出演者を支えました。

また本稽古中には、稽古過程の発信と観覧誘客のため、奈良のコミュニティFM「ならどっとFM」生放送もあり、参加者自身から作品の見どころや演劇へ取り組んでいるいまの気持ちを伝えることができました。

公演 3 日前からは本公演会場である市民ホールに稽古場を移し、照明、音響、映像、衣装も本番さながらの舞台稽古に励みました。しかし、本稽古期間はほぼ休みがなく、参加者にはだんだんと疲れが出て稽古に身が入らない時もありましたが、「皆で作り上げた作品を観客に届ける」という目標をみんなで共有し、改めて気合を入れなおし乗り越えました。またこれまでの青少年と創る演劇に参加してくれたOGも稽古を観に来てくれ、応援してくれたことも参加者のエネルギーとなりました。

公演前日にはゲネプロ(本番同様のリハーサル)を行い、明日の本番で力を出し切るように意気込みを共有しました。

[日　時]令和元年 12 月 3 日(火)～20 日(金)の間の 16 日間
[場　所]ならまちセンター　多目的ホール(3 日～17 日)・市民ホール(18 日～20 日)
[参加者]

3 日(火)	4 日(水)	5 日(木)	6 日(金)	7 日(土)	8 日(日)	10 日(火)	11 日(水)
14 人	13 人	15 人	19 人	17 人	17 人	19 人	20 人
12 日(木)	13 日(金)	14 日(土)	15 日(日)	17 日(火)	18 日(水)	19 日(木)	20 日(金)
22 人	21 人	22 人	21 人	23 人	23 人	23 人	23 人

(7)「奈良の夜の夢」本公演

12 月 21 日、ならまちセンター市民ホールにて、青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」を上演しました。

上演前のホワイエでは過去の公演や 8 月演劇体験ワークショップから本稽古までの風景展示

を行い、活動過程を観覧者にも見ていただきました。

いよいよ本番公演が始まると、田上作品特有の軽快なテンポ、遊び心満載の演出と参加者のエネルギーとチームワークがタッグを組み、観覧者を魅了しました。これまでの稽古の成果を存分に発揮するように堂々と演技をしている姿は、その参加者も本当に輝いており、「奈良の夜の夢」初演は盛況のうちに終演することができました。

[日　　時]令和元年 12 月 21 日(土)13 時 30 分開場、14 時開演(上演時間約 80 分)
[場　　所]ならまちセンター 市民ホール
入場無料／要申込(当日券発行は入場状況を加味し判断)／全席自由
[観覧者数]255 人
[スタッフ]翻案台本・演出　田上豊(田上パル)
演出助手　福田健二
舞台監督・美術　ニシノトシヒロ(BS-Ⅱ)
舞台監督補佐　北方こだち
音響　廣岡美祐
照明　加藤直子(DASH COMPANY)
映像　吉光清隆(PLAYSPACE)
映像オペ　上原優香
衣装　山口夏希
スペシャルサンクス　新居達也、井上大輔、中村恵、奈良県高等学校演劇研究会

[あらすじ]時は 8 世紀。巨大な仏像の完成が目前に迫り、開眼供養に向けて大いに盛り上がる都。悲願達成に万感の想いの上皇の元へ、一組の貴族が「結婚」の相談にやって来て…。シェイクスピアの名作「夏の夜の夢」に奈良の文化的エッセンスを取り入れた新しい物語がここに誕生する。

[出演者] 聖武上皇…小林良駿　光明皇太后…隅野由梨
津守通…嶺川観音子
礼讃太…髙木創太　出見取安…越智隼人
葉宮…赤瀬怜　経怜奈…堤晴菜
うぐいす…若林萌恵　カラス…吉田穂奈美
ふくろう…山口愛優理　とき…上村まい
らいちょう…浅野花蓮　あかうそ…依藤日向
孝謙天皇…松下奈央　白…米谷侑美琳・河﨑匡亮
絵馬…早田美帆　大和…織田千聖
わらび…櫻井佳奈　飛鳥…西脇愛梨
金魚…田辺美海

[クリエイションスタッフ]浅田玲子、今本千穂

(8)活動の振り返り
今回も前回同様参加者に、自らの課題の克服、成長・変化を意識しながら、稽古から舞台公演への挑戦に取り組むことを期待して『自己チェックシート』の記入をお願いしました。すぐに大きな変化はなくても、そこに何か将来に繋がる気付きが認められるか等も含めて、スタート編とゴール編、前後 2 回に分けて内容を確認しました。

スタート編は 9 月創作入門ワークショップにて配付し、これから始まるチャレンジにあたり自身が克服したい課題、またその時点での奈良を好きと思う気持ちをパーセンテージで表してもらいました。参加理由は 39%が「以前参加して良かったから」と回答し、参加者のプログラム満足度は高いこと、また 26%が「演劇力を向上させたい」と回答し、演劇のプロと創作ができることに魅力を感じていることがわかりました。

公演終了後に記入してもらったゴール編ではプログラムをやり遂げての感想、スタート編で記入した課題に対する変化、プログラム後の奈良を好きと思う気持ちのパーセンテージを聞きました。

感想では、67%が「達成感・満足感」を得たと記入し、充実したプログラム期間を過ごしてくれたことがわかりました。4 段階で選択する課題の変化については 93%が「変化がある・少し変化がる」と回答し、「コミュニケーション力が向上した」「挑戦することが大事と思えた」という内容が多くありました。さらに奈良を好きと思う気持ちの変化は平均 11%の上昇を見せ、「歴史や文化への興味が湧いた」「稽古場に向かう途中も奈良の魅力をたくさん感じた」「演じることで奈良に愛着が湧いた」という意見が多く、参加者が奈良への理解や関心を深めることに寄与しました。

【参加・観覧　延べ人数】

演劇体験ワークショップ（2 日間）	26 人
創作入門ワークショップ（2 日間）	26 人
基礎練習（4 日間）	59 人
配役オーディション	20 人
プレ稽古（3 日間）	62 人
稽古・上演（17 日間）	335 人
本番公演観覧者（12 月 21 日）	255 人
合計	783 人

PROGRAM4：ラーニング・プログラム／

平田オリザさんによる演劇ワークショップ

過去二年度に引き続き平田オリザ氏を講師に迎えた演劇ワークショップを、今年度は中高生の部と一般の部に分けた二部制で実施しました。

参加者らはゲーム形式のコミュニケーションワークショップやそれについての平田氏からの解説、ジェスチャーを例にしたイメージ共有の考え方、ロールプレイを通した演出の役割の理解などについて学びました。

一般の部には教育関係も参加者が多く、平田氏からは教育現場における演劇の役割等についての話もたくさんありました。

［日　時］令和元年 11 月 17 日（日） 中高生の部　10 時～13 時
一般（18 歳以上）の部　14 時～17 時
［会　場］ならまちセンター　多目的ホール
［参加者］中高生の部　40 人、 一般（18 歳以上）の部　40 人
［内　容］
①平田氏が出したお題に対して、同じ答えを持つ人同士で集まる“声出し”ゲーム
②身体を使ったゲーム
③1～50番までのカードが配られ、自分に近い番号の人を探す“共有イメージ”のゲーム
④キャッチボール、長縄跳びのジェスチャー
⑤3 人組でロールプレイ

中高生の部

一般（18 歳以上）の部

広報活動について

■ 広報コーディネートについて

本事業の広報活動については、リレーリレーにコーディネートを依頼し、フライヤーや SNS 等にて行いました。

■ 広告物

・ 総合フライヤー（令和元年 11 月 7 日から配布開始）

仕様：A4 折パンフレット 巻三折り カラー

内容：プログラム全体について

部数：10,000 部

（主な配布先）

市関係施設／美術館・美術団体等／報道関係／大学・高校・中学等／

アート関係団体／イベント関係者／会場設置／関係者・出演者等／その他

・ 美術プログラムフライヤー

仕様：A4 サイズ 裏表 カラー

内容：美術プログラムについて

部数：5,000 部

（主な配布先）

会場設置／市関係施設／会場近隣小学校／アート関係団体／関係者・出演者 等

・ のぼり旗 13 本、ポスター70部

のぼり：各プログラム会場にて掲出

ポスター：市内文化施設等にて掲出

・ 記録集 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良2017－2020」の発行

次年度以降の事業 PR 及び奈良市のプロモーションのため写真を中心とした記録集を制作（松永大地編集、赤井佑輔（paragram）デザイン）

仕様：全 92 ページ 1,000 部発行

（主な配布先）

市内外のアート関係者・団体・施設

■ インターネットを利用した広報

・ Facebook

フォロワー数（令和 2 年 3 月時点）：3,057 件

Facebook 広告：3 件

・ Twitter

フォロワー数（令和 2 年 3 月時点）：854 人

・ Instagram

フォロワー数（令和 2 年 3 月時点）：210 人

・ WEB サイト：奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」（https://kotohogunara.jp/）
平成 30 年 9 月に公式サイト開設、令和元年10月に令和 2 年度プログラム内容に更新

■ プレスリリース・メールニュース

・ 令和元年 11 月 12 日／市長定例記者会見
現代アートプログラム招へい作家　北澤潤氏同席のもと、令和元年度企画について市長会見を行った。

・ 市政記者クラブへ報道資料提供
令和元年 5 月 29 日／青少年と創る演劇プログラム参加者募集
令和元年 9 月 26 日／グリーン・マウンテン・カレッジ（第 1 回）開催
令和元年 10 月 15 日／「平田オリザさんによる演劇ワークショップ」参加者募集
令和元年 11 月 13 日／「平田オリザさんによる演劇ワークショップ」取材依頼
令和元年 12 月 5 日／青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」 本稽古の取材依頼
令和元年 12 月 19 日／青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」ゲネプロ・本公演の取材依頼
令和 2 年 1 月 8 日／北澤潤「You are Me」オープニングイベント等について

・ メールニュース
アート関係者や報道・メディア等に 2 回（企画発表時と北澤潤「You are Me」開催告知）メールでのリリースを行った。

■ メディア等掲載実績

掲載日	掲載物	内容
令和元年 8 月 4 日	毎日新聞	中高生が演劇作り
令和元年 12 月 22 日	朝日新聞	平城京舞台に恋愛喜劇　中高生、シェークスピア翻案
令和元年 12 月 22 日	毎日新聞	10 代熱演　観客魅了　市演劇プログラム新作
令和元年 12 月 22 日	旅色プラス （ウェブメディア）	いまブームの「アーティスト・イン・レジデンス」って？ 奈良アートプロジェクト「古都祝奈良」に注目
令和元年 1 月号	月刊 Yomi っこ	（タウンニュース欄）奈良のまちなかでインドネシアを体験

※報道資料については、広報戦略課を通じて PRTIMES に掲載

■ 青少年と創る演劇当日配布用プログラム作成
A4 白黒　4 頁　300 部（会場にて配布）

■ 奈良市広報誌「奈良しみんだより」での告知（約 163,000 世帯へ各戸配布）

9 月号	グリーン・マウンテン・カレッジ（9/29 分）開催
10 月号 ※準特集・2 ページカラー	・「古都祝奈良」の軌跡 ・演劇ワークショップ参加ボ募集 ・グリーン・マウンテン・カレッジ（11/17 分）開催 ・北澤潤インタビュー

11 月号	・青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」観覧募集 ・グリーン・マウンテン・カレッジ(12/21 分)開催
12 月号	青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」活動報告、観覧募集
1 月号	・北澤潤「You are Me」開催 ・グリーン・マウンテン・カレッジ(1/26 分)開催

■　プロモーション動画等

・　奈良市動画チャンネル「奈良市ニュース」

公開日	タイトル	再生数
令和元年 11 月 22 日	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良　2019-2020」開催	141 回
令和元年 12 月 20 日	「古都祝奈良 2019-2020」 青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」本番に向け熱演！	315 回
令和 2 年 1 月 24 日	古都奈良とインドネシアの微かな重なり 北澤潤「You are Me」開催中！	122 回

・　奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2019-2020」YouTube 公式チャンネル

公開日	タイトル	再生数
令和元年 6 月 10 日	青少年と創る演劇「始まる！編」	89 回
令和元年 6 月 11 日	青少年と創る演劇「参加して良かった！編」	56 回

※twitter 埋め込み配信での再生数は含まない

＜広報関係写真＞

「古都祝奈良」公式サイト

ポスター・総合フライヤー

市長定例記者会見

美術プログラムフライヤー

のぼり

検討と課題

■ 北澤潤「You are Me」

・ これまでの美術プログラムは、西尾美也プログラムディレクターのディレクションにより「生活」に着目して展開してきた。今年度の美術プログラム 北澤潤「You are Me」は参加者とともに作りあげる作品として市民を巻き込んでいく次なるステップとなるプログラムであった。

・ 「You are Me」アンケートによると、65%が古都祝奈良を知らず認知度という点で課題が残った。市民や観客の興味を誘うような広報の工夫が必要である。

・ 来場者への対応について、キャプションだけではわからない場面もあり、作家の意図をかみ砕いて伝えることのできる、アートと市民・地域を繋ぐ人材の育成が必要である。次年度はアートと市民を繋ぐ役割を担う人材との協働を検討する。

■ グリーン・マウンテン・カレッジ

・ 今年度は各プログラムに連関する形で実施したことにより、各プログラムの理解向上などに繋がった。

・ 次年度は、設営時や運営時におけるボランティア参画の機会を提供するなどの仕組みを作っていくことをめざす。

・ グリーン・マウンテン・カレッジはリピーターが増えているプログラムである。引き続き参加している方は必ずしもアートファンではなく、火を囲んで語り合うことを純粋に楽しんでいる。小山田氏も言う手法としてのアートというものが参加者に受け入れられているのだと考えられる。

■ 青少年と創る演劇

・ 本公演の観覧者アンケートの来場動機は「脚本演出やプログラム自体に興味を持った」が32%であり、その方々の満足度として「大変良かった」「良かった」が 92%であったことから、演劇未経験者も含んだ中高生の演劇公演ながら関係者以外が見ても面白いと思うことのできる作品レベルは担保されていると考える。

・ 今年度の 23 人の参加者のうち 10 人が過去参加者であり、中学生の時に参加した人が高校生になってまた参加してくれるというケースもある。

・ 参加者のプログラム成果をはかる方法として、昨年度から導入した自己チェックシートを今年度も記入してもらったが、プログラム終了時の提出率が悪いため、方法を再検討する必要がある。

・ 参加者にとっては学校・部活の枠を越えたコミュニティ形成の場となっており、新たな成長機会の提供という点でも本プログラムの意義は大きいと考えられる。

・ 3 年間プログラムを継続したことで運営面はスムーズに進められることができた。次年度以降は内容のさらなる充実を図る段階であり、奈良についてより知ることのできる企画などを、検討していきたい。

■ 広報

・ 本アートプロジェクト3か年の区切りとして活動をまとめた記録集を今年度作成した。本アートプロジェクトのプロモーションツールとして今後活用していく。

・ 本来であれば年度毎に記録集を作成したいが、予算を確保することは難しい現状である。

《資料編》

(1)令和元年度プログラム　参加者数等まとめ

■　全体

参加者・来場者数

北澤潤「You are Me」	33,590 人
グリーン・マウンテン・カレッジ	199 人
青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」	278 人
平田オリザさんによる演劇ワークショップ	80 人
計	34,147 人

属性（アンケート結果より／アンケート総数 508 件）

性別	
男性	30.5%
女性	69.5%

年齢							
10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
28.8%	9.5%	13.5%	21.0%	13.3%	9.5%	4.0%	0.4%

■　内訳

①　北澤潤「You are Me」 参加者・来場者数

ロスト・ターミナル	15,239 人
フラグメンツ・パッセージ	5,151 人
ノーウェア・オアシス	428 人
地球の鳥かご	9,780 人
ひとときのミュージアム	29 人
ドローイング展	2,963 人
計	33,590 人

②　グリーン・マウンテン・カレッジ　参加者数

9 月 29 日（日）	59 人
11 月 17 日（日）	50 人
12 月 21 日（土）	60 人
1 月 26 日（日）	30 人
計	199 人

③ 青少年と創る演劇「奈良の夜の夢」

参加者	23 人	8～12 月活動　延べ 528 人
観覧者	255 人	
計	278 人	

④ 平田オリザさんによる演劇ワークショップ

午前の部（中学生・高校生対象）	40 人
午後の部（18 歳以上対象）	40 人
計	80 人

奈良市アートプロジェクト

事業計画

令和元年５月

奈良市アートプロジェクト実行委員会

《令和元年度「古都祝奈良2019-2020」事業計画》

奈良市は平成 28 年度に国家プロジェクト「東アジア文化都市 2016 奈良市」の開催都市として、年間を通じて様々なアートプログラムを展開し、奈良市の「場の力」を内外に発信した。

平成 29 年度以降はその成果を受け継ぐ事業として、奈良市アートプロジェクト実行委員会を立ち上げ、アートの力で地域の社会課題を掘り下げ、文化の多様性を創造力へとつなげるために奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」を実施している。

令和元年度についても、平成 29 年度に策定した「事業構想」に基づき、事業を継続実施する。

基本的な考え方

・令和元年度の事業タイトルは「古都祝奈良 2019-2020」とする。
・事業構成は「クリエイティブプログラム」「ラーニングプログラム」とする。
・プログラムディレクターは、美術プログラムは西尾美也氏、演劇プログラムは田上豊氏とする。
・「東アジア文化都市 2016 奈良市」を契機に始まった、中韓のパートナー都市との青少年交流事業「東アジア文化創造 NARA クラス」（奈良市主催）と連携する。
・奈良市教育委員会との連携により、小・中学生が事業に参加しやすいスケジュールや学校へのアウトリーチ活動を検討、調整し、より多くのこどもたちがプログラムに参加できる機会を設ける。

事業の展開方法

（A）　クリエイティブプログラム

国内外で活躍するアーティストによる創作のみならず、
地域や市民との創作過程での関わりを重視したプログラム

（1）　北澤潤氏によるプロジェクト

　インドネシアを拠点に活動するアーティスト北澤潤氏を参加作家とし、市民との共同制作を行う。日本で数々のプロジェクトを実施したのち、自らとプロジェクトとの関係性を模索するためにインドネシアに居住した北澤氏による、奈良とインドネシアをつなぐようなプロジェクト。

■作家プロフィール

美術家。1988 年東京生まれ、ジョグジャカルタ拠点。
東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。合同会社北澤潤八雲事務所代表。さまざまな国や地域でのフィールドワークを通して「ありえるはずの社会」の姿を構想し、多様な人びととの立場を越えた協働によるその現実化のプロセスを芸術実践として試みる。2013 年より IPA – Institute for Public Art 研究員（上海）、2016 年に米経済誌フォーブス「30 Under 30 Asia」アート部門選出。2016 年から 2017 年にかけて国際交流基金アジアセンター・フェロー（インドネシア）。

（2）青少年と創る演劇（仮）

「東アジア文化都市 2016 奈良市」に始まった継続プログラム。目的はこれまでと同様に、次代を担う青少年が創作の過程を演劇のプロとともに経験することで、創造する喜びを体験し、その成果を発信するとともに、ふるさと・奈良を自分の言葉で語ることができる人材を育成することであり、田上豊氏の演出のもと、新作を創作する。奈良の演劇関係者も事業に携わることのできるプログラムとなるよう連携する。

■スケジュール案

7 月　募集開始
8 月　オーディション、事業説明会
9 月　ワークショップ
10 月　基礎練習
11 月　プレ稽古
12 月　本稽古
12 月 21 日（土）本公演

(B)ラーニングプログラム

アートを手法にした学び合いや創作体験を通じて獲得したものを
次世代へ伝えていくためのプログラム

(1)平田オリザさんによる演劇ワークショップ

演劇を手法として新たな気づきを得ることが出来たと参加者から非常に好評なプログラムを継続する。今年度は参加者層別の内容で、2回実施する。

■実施日

11 月 17 日(日) 午前　中高生向けワークショップ／午後　一般向けワークショップ

(2)グリーン・マウンテン・カレッジ

昨年度新たに実施したプログラムを継続する。たき火とティピーテントのもとに集まり対話をすることで共有空間を獲得すること、また学び合いにより獲得したものを次世代へ伝えていくことが、そのまま作品となるという考えのもと実施する。

■実施日

9 月 29 日　テーマ:東アジアと奈良／ゲスト:未定

※東アジア文化創造 NARA クラスと連携プログラム

11 月 17 日　テーマ:演劇／ゲスト:平田オリザ氏

〇月〇日　テーマ:今年の「古都祝奈良」の美術／ゲスト:西尾美也氏、北澤潤氏

12 月 21 日　テーマ:青少年と創る演劇／ゲスト:田上豊氏、制作スタッフの方々

(3)北澤潤氏によるプロジェクト

(4)青少年と創る演劇(仮)

事業報告・アーカイブ

■「アート de 奈良」の実施

奈良市内で行われている現代アート実施団体が一堂に会し、事例報告と意見交換を行う。昨年実施し好評だったため、今年度は学園前アートフェスタ使用会場にて実施する予定。

■「古都祝奈良」記録集(2017-2020)の作成

今年度で３年目となった事業のアーカイブとして、３年間の事業をまとめた記録集を作成する。

《令和元年度（古都祝奈良 2019-2020） 予算》

[収入]

単位：千円

費目		令和元年度	備考
市負担金収入	市支出金	11,731	
合計		11,731	

[支出]

単位：千円

費目	令和元度	備考
事業費	11,200	美術、演劇等主要事業、広報宣伝費
事務管理費	531	事務費、運営費
合計	11,731	

《令和元年度（古都祝奈良 2019-2020）決算》

[収入]

単位：千円

費目		令和元年度	備考
市負担金収入	市支出金	11,581	予算との差額 149,756 円は奈良市返納
合計		11.581	

[支出]

単位：千円

費目	令和元年度	備考
事業費	11,140	現代アート、演劇等主要事業、広報宣伝費
事務管理費	441	事務費、運営費
合計	11,581	